

銀河

全北海道退職教職員の会網走支部通信

No.101 2015年1月10日

道退教網走支部事務局

〒090-0836

北見市東三輪1丁目83-35

Tel 0157-31-7551 F ax0157-31-7559

賀春



2015年 新しい年があげました。

組合員の皆様、元気でのごしの事と思います。

昨年総選挙では「5つの転換」を訴えた共産党の大躍進と「沖縄」での完全勝利に胸躍らせた開票日。

久しぶりの勝利に苦労もふつとんだ年末でしたね。

国民の深部の力と未来に託す思いが一気にあふれてきたのを感じる時間でした。この（思い）を糧に、次の戦いへ向けての展望が見えてきたのを今感じています。

とりわけ沖縄における小選挙区（全4区）完全勝利は今後の闘い方（統一戦線）に大きな教訓と展望を与えてくれたように思います。

私たちの生活をとりまいている状況はまだまだきびしいけれど（消費税、物価、公共料金、年金、保険・介護料など）“力を合わせて闘っていくことによって未来は開かれる”という期待が大きく広がった選挙結果だと思っています。

今年も

仲間と共に「明るく・楽しく」（ちょっぴり学習もして）希望を持って生きていきましょう。

会員の皆様の健康と生きる力を宿して年頭のあいさつとします。

網走支部支部長 木村正寿



みなさんおめでとうございます

でも安心はしてられません。安倍さんは一気に憲法改悪へと進みことまちがいなし！これを許してはなりません。集団的自衛権の行使へ向けてますます民意とは正反対の道を選択していくでしょう。

私たちの教え子や孫たちに武器を持って人を傷つけさせてはなりません。

私は絵手紙で反戦平和を多くの人に訴えていくつもりです。

齋藤 稔

赤旗まつり(第41回) に参加して その2

木村正寿

3日目(11月1日) いよいよ“赤旗祭り”の始まりです。

天候は心配でしたが(予想はくもり時々雨)。会場までの経路も初めてなので早めに宿を出ました。

「東京駅」から「新木場駅」までは“京葉線”なので、「東京駅」で乗り換えです。この“京葉線”のホームまで行くのが大変。表示はきちんと出ているのですが、曲がったり、下ったりで到着するまでに5分以上歩きました。(途中には空港にあるような歩くエスカレーターが4本あった。)

「新木場駅」に着くとホームの出口から“祭り会場”へのプラカードを持った人たちがたくさんいて、会場まで案内してくれました。到着時(9:30頃)にはもう駅から会場(夢の島公園)まで人が連なっていました。

受付をすませ、全国物産展の通りを過ぎて“屋外ステージ”の舞台へ。舞台は大型ビジョンを備えた立派なものでした。

10時20分荒馬座の開幕太鼓で、まつり開会です。

11時からの「パネル討論」は、参議院議員 田村智子さんの司会で、沖縄の「まんちゅ大集会」(1万5千人が参加)との2元取り組みです。いまたたかわれている沖縄知事選の意義と争点について「オール沖縄」の代表として立候補したオナガ雄志さんと名護市の稲峰進市長のビデオメッセージを交え、元宜野湾市長の伊波洋一さん、ジャーナリストの吉田敏浩さんとの討論です。(沖縄から赤嶺政賢衆院議員も電話で討論に参加しました。)

4年前の知事選をたたかった伊波さんは、仲井真知事が基地の県外移設を訴えて当選したにもかかわらず「3千億円の沖縄振興予算」と引き換えに辺野古新基地建設の埋め立て承認をしたとふりかえり「県民の思いを裏切った知事だ」と批判しました。 つづく

訃報

網走ブロック 香川侑三さんが平成26年12月4日逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



葬儀に際しまして、道退教本部より供花料と弔電。支部より供花料をお届けして弔意を表しました。

尚、道退教との連絡にあたってくれた本部事務局員の伊藤蓉子さんからの文章の一部を紹介させていただきます。

——香川先生の悲報に私はとてもショックを受けています。というのも、紋別小学校で同学年を組みとてもお世話になったのです。松橋渡先生、名苗修治先生・・・紋小の華やかな時代でした。本当に淋しいです。道退教会員として香川先生と40数年ぶりにお会いしたかったです。心からご冥福をお祈りいたします。

◎「久子先生！」左の角を曲がったその方に思わず声をかけた。振り向いた先生、帽子を深くかぶりマスクをしていた。「ああ～、あなた達ね。」互いに手を差し伸べ握手！帽子をとった先生は、真っ白なショートヘアー。色白の肌と澄んだ瞳とその声は変わらず。

◎60年前、セーラー服に身を包んで中学生になった1年間だけ担任だった恩師。私たちは13歳、先生は21歳の出会いだった。

◎時は流れて、「すい臓ガンで、ほかに転移していて、レベルIVであることを知ったとき、まさか抗ガン剤の治療でここまで元気になれるとは思わなかった。そしてあの時の”想いでの記事”で、60年ぶりの再会！自分がガン患者であることを忘れる程、楽しく嬉しい一時だった。迷惑をかけてしまったが、ありがたかった。」と、帰郷後FaXが届く。

◎やんちゃ盛りの騒音は2階の教室から、その下1階の校長室に呼ばれる新卒1年目の数学担任は、駆け上がって52名の前で叱咤。どんな思いで勤務していたのだろうか。記憶に残っていない私たちは、それぞれ膝の故障、バセドー氏病、手首骨折を抱えた70代。先生は「みんなを怒ってばかりだったことを申し訳なかった。」と、嘆いていた。外側は健全に見えるが2週に1回の放射線治療を受け前を向いていることに励まされた。～”思い立ったらためらわずその場で一步を踏み出せ・年齢のことなど考えるな・心して一瞬一瞬を大切に丁寧に日々を運べ・生きているそのことを何よりも喜ぶのだ・飽かず続けよ貫けよ・せっかくの一日だ決して無駄にするな（徒然草より）”～又の再会を願っている。 飯田禎子

ゆきとどいた教育をもとめる全国署名

今年は 昨年より8筆多い344筆の署名が集まりました。目標の500筆には届きませんでしたが、12名の方々が署名をよせてくださいました。ご協力ありがとうございました。

退職教職員1万人アピール

そのままFAX できる用紙同封しました。まだ賛同できる方で出していない方は 1月末日までをお願いします。